

根子番楽と暮らし 船橋陽馬

Funabashi Yoma

マタギ文化がある地域



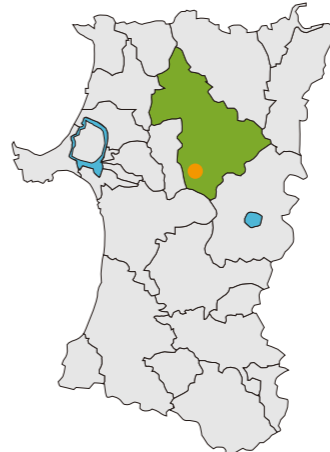
根子集落は50世帯150人ほどが暮らす、秋田県中部の山間に位置し800年続くと言われる伝統芸能「根子番楽」と「マタギ」と言われるかつて狩猟を生業とした民が暮らす土地。2013年にこの土地に移住した船橋さんは、写真家として活動する傍ら「マタギ」として山に入り熊を追う生活をしています。

「最初はマタギの写真を撮りたくてこの土地に通い出しました。しかし、よそ者がカメラを携え猟に同行することに対して違和感を抱く人も中にはいて、そんな距離感で写真を撮ることに自分自身も違和感を感じ始めました。」やはりこの土地の人間にならない限り、この距離は縮められないと判断した船橋さんは住む場所を求め、阿仁地域にどこか住める場所はないかと模索し始めました。そんな中、マタギ発祥の地とされる根子集落の魅力に取り憑かれていきます。

「1年を通じ毎週水曜日に行われる番楽練習や「鳥追い」「観音講」「マトビ」と伝統的な集落行事が今でも残り、人々が集い交流する場が日常

に溢れ、言うまでもなく、皆が仲良く助け合いながら日々を過ごしています。時代が変わっても、変わることなく続く人々の営みの背景には、この過酷な自然環境の中を生き抜いた先人たちの智慧や価値観が、今を生きる人々の心にも深く根付いていることに気付かされます。」

北秋田市阿仁根子



根子で暮らす船橋さん家族。奥様はシンガーソングライターで活躍されている本城奈々さんです。



トンネルを抜けると、眼下に素晴らしい景色がある



まもなく始まる根子番楽に気持ちが高まる



番楽の一員となりお囃子を奏でる船橋さん



根子集落に行くにはこのトンネルを抜けることになる



根子番楽の一場面



マタギもこの土地の暮らしから生まれたもの。それならこの土地を知らなければ始まらない。そうして始まった山での生活も7年目。今では2人の息子にも恵まれ、まさにこの土地の人間になったはずですが、「まだまだです。集落の人たちに比べたら知らないことが多過ぎて。熊を探しに山に行っても道に迷わないか不安だし、舞茸だっけ見つけられない。番楽保存会にも入っていますが、こちらはまだまだ半人前です。だからうちの息子たちが羨ましい。もうすでに生まれが根子な訳ですから」

「移住って誰かに勧められてすることってなかなかないと思うんです。自分がこの土地に住みたいって思えば移住する。ただそれだけ。僕も妻も根子に引っ越したくらいにしか思っていないです。」

土地の文化はその土地で暮らす人々が長年掛けて作り出して来たもの。そこに敬意を払い、土地の人間になろうとする努力が、暮らしを楽しむ何よりも方法だということ。集落の人々に見守られながら、遅く育つ2人の息子さんにこの小さい集落の明るい未来が見えた気がしました。